

福島県教育センターから

夜尿症の治療について

教育相談部

一、母親からの手紙

前略 私は〇〇に住む者でございませす。家族は〇人で、別によそ様の生活となんら変わりなく、円満に生活をしておりますが、ただ、長女（小学校二年生）が数年前から夜尿症になり、あらゆる良いという方法を試みましたが、いっこうに良くなりませんでした。思いあまって、学校の先生に相談をしましたら、教育センターを御紹介いただきました。

医者でも治らないのにと、疑問の気持ちもありましたが、なにせ、我が子が少しでも良くなってくれるのではないかと思ひ、恥をかえりみずうかがいました。

当初は、普段となんら変わらなかつたのですが、一か月を過ぎるようになりまして、わずかながら、尿の回数が増減してまいりました。そうしたらどうでしょう。子供自身が明るさを増

し、自分の方から「教育センターに行こう」とせがむようになりました。それから二か月ほど通ひ、今では完全に良くなり、子供にも笑顔がもどり、学業にも興味を持ち始め、みちがえるほど活発になってきました。

私たち夫婦も大変感謝しておりますとともに、私たち以上に困っているかたがたが大勢いると思ひますので、もつと教育センターの相談活動を知らせて、気軽に相談にに応じてくださいませうお願いいたします。（以下略）

この手紙は、夜尿症のために、教育相談部を訪れ、三か月間週一回ずつの心理療法を受けた小学校二年生（女）の母親からのものである。

二、夜尿症の原因

夜尿症を一口でいえば「夜寝ていて、知らない間に放尿をする癖が、満三歳を過ぎて治らない場合」ということ

昭和52年度教育相談延べ件数集計表

管内	北	中	南	津	津	いわ	相	双	計
区 分									
幼 児	232	7	-	2	-	-	1	242	
小 学 生	203	67	-	32	-	4	-	306	
中 学 生	150	89	-	-	-	5	-	244	
高 校 生	106	10	12	-	-	-	-	128	
一 般	10	-	-	-	-	-	-	10	
教 員	109	18	-	4	-	-	1	132	
計	810	191	12	38	-	9	2	1,062	
管 内									
区 分									
知能・学業	123	54	-	1	-	-	-	178	
性格・行動	512	86	4	33	-	5	2	642	
身体・神経	105	33	4	-	-	4	-	146	
進路・適性	9	6	4	-	-	-	-	19	
教育一般	61	12	-	4	-	-	-	77	
計	810	191	12	38	-	9	2	1,062	

である。普通子供は、心身の発達につれて、排水をコントロールできるようになるが、なかには、年齢が進んでも、このコントロールがうまくいかない子供もいる。夜尿が問題となるのは、六歳を過ぎて、ほとんど毎晩のようにあるといった場合であり、年齢と回数

(一) 訓練の不足した場合
おしめをいつまでもさせ（特に夜）おねしょを積極的に直そうとしなければ、夜尿はずっと残るものである。もちろん、寝室と便所との距離、便所の構造なども関係が深い。また、子供をかわいがるあまり、いつまでも赤ん坊扱いしたいという親の願ひが、つい訓練をなおざりにしてしまうということもあろう。

(二) 一種の心身症としての夜尿

この場合は、普通、いったんでき上がった夜のしつけが、心理的な原因から崩れて、退行現象としての夜尿がひきおこされてくる。これは、子供がなんらかの欲求不満を感じているためで、それによって、自律神経のバランスが乱れ、コントロールがうまくできなくなってしまうことであり、特に、母親の愛情の回復を求めたいという無意識のうちの反応が、赤ん坊的な夜尿をひきおこすことが多い。

(三) 器質又は機能的な泌尿器神経系の疾患の場合

この場合は、よりまれなものといえるが、ただこのときには、単に夜尿ばかりでなく昼間の遺尿（無意識排尿）、又は尿失禁か、ひん尿を伴っ